

第28回原子力委員会定例会議議事録

1. 日 時 2008年6月24日(火) 10:30～11:10
2. 場 所 中央合同庁舎4号館10階 1015会議室
3. 出席者 原子力委員会
近藤委員長、田中委員長代理、松田委員、広瀬委員、伊藤委員
日本原子力研究開発機構
伊藤理事
北端敦賀本部経営企画部研究主席 兼 国際協力グループリーダー
内閣府
黒木参事官
4. 議 題
 - (1) 第6回敦賀国際エネルギーフォーラムの実施結果について
 - (2) 「市民参加懇談会in京都」の開催結果について
 - (3) その他
5. 配付資料
 - (1) 第6回敦賀国際エネルギーフォーラムの実施結果について
 - (2) 「原子力委員会 市民参加懇談会in京都」の概要

6. 審議事項

(近藤委員長) おはようございます。第28回原子力委員会定例会議でございます。

本日の議題は、一つが第6回敦賀国際エネルギーフォーラムの実施結果について。二つが「市民参加懇談会in京都」の開催結果について。三つ、その他となっております。よろしく願いいたします。

最初の議題です。まず、事務局から説明をお願いします。

(1) 第6回敦賀国際エネルギーフォーラムの実施結果について

(黒木参事官) 最初の議題は、先日行われました第6回の敦賀国際エネルギーフォーラムの結果につきまして、日本原子力研究開発機構の伊藤理事、それから敦賀本部の北端国際協力グループリーダーからの説明をお願いいたします。

(伊藤理事) 早速御説明させていただきます。資料につきましては、ここに書いてありますように第1号ということで、第6回敦賀国際エネルギーフォーラム実施結果ということで説明させていただきます。

このフォーラム、副題は「エネルギーと環境／『もんじゅ』からの提案」ということで、「もんじゅ」が13年ぶりに運転再開を目指していること。そして、そういう中で世界一流の専門家と一般市民との意見の交流を図ることを目的として開催いたしました。

フォーラムは6月6日、7日の2日間。3日目が施設見学ということで「もんじゅ」の見学をいたしました。場所は若狭湾エネルギー研究センターでございます。

参加者ですが、定員350人のところ2日間で、938人。3枚目の後ろに参加者数の詳細が書いてございます。添付1-1でございます。今回、一般参加者と地元の高校生等が先生の引率で結構来てくれまして、合わせて200名を超える人が来てくれました。この辺が今回の特徴かと思えます。そういう意味で盛大に行われたと思っております。

概要でございますが、まずフォーラムの冒頭、私どもの理事長の挨拶の後、旭副知事、河瀬市長、古谷文科省審議官から御挨拶を頂きました。②でございますが、フォーラム特別講演では経済産業省の資源エネルギー庁の西山部長から気候変動に対応する日本のエネルギー政策について講演いただきました。日本政府として原子力大綱で定めた基本方針を尊重して、安全確保を大前提に原子力発電の推進に着実に取り組んでいくということが報告されました。非常に理路整然と報告されたので非常によく分かります。基調講演Ⅰでは東大の田中

教授から今後の地球温暖化の防止に原子力を十分に活用しなければいけないということと、原子力の影の部分について、その解決のために原子力エネルギーを正当に評価することが必要である。そういう御指摘がございました。その後、セッションⅠに入りました。セッションⅠでは世界各国からのエネルギー・環境政策について報告いただきました。米国、フランス、中国、インド、ロシアからそれぞれいただきまして、どの国もエネルギーの安定供給、環境保全対策の両面で原子力が今後、ますます重要なポジションを占める。そして、原子力分野での国際協力が必要という説明をされております。添付資料2-2～2-4のところにセッションⅠの講演者等があります。セッションⅠの神田先生を座長としましてそういうパネル討論が行われたということでございます。参加者はそのとおりでございます。セッションⅡで、私から「もんじゅ」の状況と今後の取組について御説明しました。その後、大阪大学の竹田先生を座長に、資料に書いてありますようにOECD/NEA、米国、フランス、中国。そこに「インド」と書いてありますが、「韓国」の間違いでございます。韓国の専門家から「もんじゅ」を利用したMA燃焼とか、これからの国際的な研究の場として「もんじゅ」のニーズが高いという形で討論されました。これが第1日目で、第1日目はそういう意味では堅めの報告となりました。

2日目は、基調講演で松田先生に「地球と友達になろうー電気のごみの物語」ということで、分かりやすく皆さんに語りかけるように、原子力エネルギーの拡大が不可欠であるということをスウェーデン等の環境先進国の例を検証しつつ御報告いただきました。原子力利用に伴って解決しなければならない放射性物質の問題について、お茶の間で議論いただけるようにワークショップを「共に語ろう電気のごみ」等の事例も御紹介いただきました。その後、敦賀市女性エネの会から「地球温暖化って？」という紙芝居がありました。セッションⅢとして、「熱中塾」を七つの分野に分けて行っておりますが、いろいろな方から活発な討議がございました。「熱中塾」の様子は添付3でございますが、3-1から様子がそれぞれについて書かれてございます。そういうことで七つに分かれて熱心な討議が行われたということでございます。セッション4ですが、これはエネルギー・環境に関する教育についてどうかということで、スウェーデン、米国のアイダホの高校の先生、韓国の高校の先生、あわら市の中学、敦賀市の小学校の先生から御報告があり、福井大学の伊佐先生の座長の下にパネルディスカッションがありました。ここで印象的だったのは、福井の伊佐先生がまとめられたのですが、今回、福井からエネルギー・環境教育の変化の兆しを感じることができるということで、原子力を含めたエネルギー・環境教育について、教育の場でも大分議論ができるよ

うになったという感想を言われております。

最後にまとめといたしまして、3ページでございますが、私どもの早瀬副理事長がまとめたものがこの3点でございます。まず第1点は、原子力をもっとも有効かつ不可欠なエネルギーであって、先進国、途上国を問わず、世界的にますます必要となります。その中で高速炉サイクルは環境への負荷を減らし、資源制約を解消するために重要なエネルギー源と位置づけられる。その開発は国際協力が重要である。「もんじゅ」は全世界が高い期待を寄せており、国際的な研究拠点として整備していく。より良い将来のために若い世代がエネルギーと環境について常に関心を持つとともに、身近なところから自主的に一つ一つ解決のための行動を起こしていくことが大切である。このためにはエネルギーに関するファクトを正しく検証し、原子力を正当に評価する意思と姿勢が基本的に重要である。その上で新しい科学技術を生み出す人材育成が不可欠である、とまとめました。ポスターセッションも電気自動車が展示してありまして、これはなかなか人気であったと思います。

以上、私の方から御報告申し上げました。

(近藤委員長) ありがとうございます。それでは質疑をお願いします。

(松田委員) 2日間参加させていただいて、2日目の担当をさせていただきました。両日とも地域の方たちがたくさん御出席になられまして、2日目も一般の市民の方たちが最後までお残りになられて「熱中塾」に参加され大変励まされました。プログラムの14ページにありますように、2日目に参加された現場で環境教育をやっていらっしゃる海外の方たち、スウェーデン、アメリカ、韓国からのゲストのプロフィールが載っています。御発表をされた地元の先生方と会が終わってから教材のノウハウの交換をしたり、情報交換をしたり、先生方がゲストの皆さんと仲良くなれたのもうれしかったです。特に地元の荒川先生と河合先生からの御発言の中で印象に残ったことは、「福井には非常にいい教育資源がある。どういう教育資源かというと発電施設があって、研究施設があって、立派な研究者の皆さんがいらっしゃる。こういう資源を県内の学校教育の中で十分に使っていくことが、他県ではできないエネルギー教育であり、地域社会が元気になっていく源になる」というような発表がありましたので、私は大切な指摘と思いました。

敦賀や福井は東京と離れていますので、現場のいい情報がなかなか東京に伝わりにくいと思ひまして、東京に帰りましてから文科省の担当官の方に、敦賀での産・学・官が一体となったエネルギー教育の事例を是非全国に発信していただきたいということを、御報告を兼ねてお伝えいたしました。

(近藤委員長) はい、田中委員。

(田中委員長代理) 一言だけ。これを前もって読ませていただいて、まず今回のエネルギーフォーラムは「もんじゅ」が中心のフォーラムだったと思います。FBRについての強い思いが「もんじゅ」にそのままストレートに来ているのですが、連休前に「もんじゅ」に行って、私たちも現実の心配を未だに払拭できないところがありまして、世界的にこれだけ期待を強くしているということは、逆にこの秋以降の「もんじゅ」の生き様がきちっとできるかどうかというのは非常に大きな、原子力政策の根幹を揺るがすかもしれない私は思っています。

そういう意味では伊藤理事には、是非きっちりとやっていただきたい。そうしないと、逆に不安が大きくなる。心配をし、常に緊張感を持っていただきたい。以上です。

(近藤委員長) はい、伊藤委員。

(伊藤委員) 今回、この試み、1日目、世界各国から専門家を集めて、堅い内容であったと。2日目に、こちらの方は市民を巻き込んだコーナーもあったと。これも私大変いいと思いますのは、今の社会というのは高度な科学技術の応用なしには、活用なしには成り立たない状況の中で、医療もそうですし、交通・通信・エネルギー、果ては農業もあると。そういうところで、高度な科学技術を活用することによって我々の生活につながっていると。一方で使い方を間違えれば、当然大きな影響を与えてしまう。そのバランスの中で生活しているということで、そういうものであれば当然、関係することについて高度になればなるほど一般の人からは理解しにくくなるということで、そこの理解、あるいは社会的重要性というものが生まれてくると思います。

御説明の中で「お茶の間」という言葉が出てきましたけれども、私も「お茶の間」という言葉が大好きで、今「茶の間」自体がなくなっているものですから、「茶の間」って通じるのかと思い、実はこの前ネットで検索してみたわけです。グーグルで六百何件ヒットしました。グーグルはやはりインターナショナルで、ヤフーでは六百万件該当したと。まだ死語になっていないと思うのです。ただ、年寄りだけが一生懸命集まっているのかもしれないが。

それは置いておきまして、いずれにしてもこういう一般市民と専門家が対話をする。しかも顔と顔を合わせて対話をするということが極めて大事だと思います。当然、原子力政策大綱も相互理解、対話ということがそれこそ1ページ半に1回出てくるぐらい大事にしている。こういう場を、いろいろな場を工夫しながら持っていくということは非常に大事なことでだと思って、大変いい試みをやられたと思います。それだけに、こうしてせっかく市民の信頼を得ながら、一方で田中代理が言われたように「もんじゅ」の方がしっかりしないと、

せっかくの信頼が台無しということになるので、ぜひ両方を着実にやっていただきたいと思います。
います。以上です。

(近藤委員長) はい、広瀬委員。

(広瀬委員) こういう試みで学生が大勢参加したのは、大変大きな成果だったと思います。

「国際エネルギーフォーラム」という題なので、集めやすかったということもあるかもしれませんね。ただ、1日目の比較的堅いセッションのときに大勢の高校生、学生が参加して、2日目の紙芝居があるときには、ほとんどいなかったというのはちょっと残念だと思うのですが、これは1日目で飽き飽きして来なくなったというわけではないのですよね。その辺のところ、特に高校生の反応がどうであったかをお聞きしたいと思います。

それから、こういう国際的なフォーラムが市民との対話の一つのいいきっかけになるという例ではあると思いますので、その成果として、特に若い人たちの反応や感想などがあればお聞きしたいと思います。

(伊藤理事) 高校生、短大生はおそらく、その時間に学校の先生又は学校にあるクラブに引率されて、その時間を聞きに来たというのが大部分です。

(北端国際協力グループリーダー) 平日に開きますと授業時間にかかる。土日に開くと自主的に来られるという傾向がございます。今回は、そういう意味で自主的に来られる方は割と少なかったと思います。

前回、市民と対話するのに平日の真っ昼間に開いては具合が悪いのではないかとということがあったのですが、やってみると土日の方が人は来にくい感じがしました。うちの妻が申しますには「このポスターでは絶対に休みの日に人は来ない。」もうちょっと工夫をしたらいいのではないかと。若い人に本当に来てほしいのなら、新しい観点の取組が必要ではないか。ということをお返事をしております。

(広瀬委員) 高校生は引率されたから来たということで、それが主な理由で、それは仕方ないと思いますけれども、それでも彼らの反応はどうだったのでしょうか。うんざりして帰ってしまったとか、あるいは興味を持って「なるほどそうか」という反応があったとか、そういう感触はありましたか。

(北端国際協力グループリーダー) 大変興味を持って帰った学生も半分ぐらいはいます。あと半分は「ちょっと分からんなあ」と声をかけながら帰った子たちはいますが、昔に比べたら大分興味を持って、原子力は役に立つという感じで聞いている子もいます。

(近藤委員長) プレゼンテーションは高校生に聞かせるために準備いただいているわけではないんです。

だから、高校生に内容の評価を求めてはミスマッチという答えしかないのです。引率して見学させているのは、国際会議とはこういうものという感じをつかませるためと理解すべきと私は思っています。ウィーンのIAEAの会議場には高いところに覗き窓があり、そこから市内の小中学生が覗いていることがあります。あれと同じと私は理解しています。

(広瀬委員) 最初は高校生が参加と聞いて、市民のための啓蒙の講座なのかなと思ったのですが、話は専門の内容ということでした。そうしますとそういうときに一般の市民の方が、せっかく高校生もいらしているわけですから、お昼休みを利用してそれこそ紙芝居的なものをその日にちょっと入れるとか、そういう工夫があってもいいかなという気がしたのです。

(北端国際協力グループリーダー) そもそも「熱中塾」というのがそういう取組でありまして、2日目ですね。

(近藤委員長) そう、ですから、そこに高校生が来ていないことにこそ、どこかに間違いがあると考えるべき。

(広瀬委員) そうですね。もう少し工夫が欲しかったかもしれませんね。

(近藤委員長) 土曜日の午前中に高校生が顔を出したいと思うか、学校の教育とか高校生の土曜日の生態を知るために、プログラムコミッティに高校生を入れてやるとか、本当に彼らにきてほしいのなら、そうやってやるのが筋。そうしないとすれば無理です。そういう点で、6回目ですが、まだまだ工夫が足りないというのが私の印象です。

(伊藤委員) 魅力があるものには参加します。

(松田委員) 確かに高校生の参加が2日になかったのは、やっぱり車の便だとか、いろいろなことがあったと思うので、2年後にはまた今回の経験を生かして開催されることを望みます。今回、現場に参加しまして2日目で印象に残ったのは、JAEA研究者の方がたくさん参加されました、特に私のところにはたくさん参加されまして、若い研究者の皆さんが地元の人々と一緒に、顔の見える関係になったというのがとても良かったと思います。

(近藤委員長) これは前からやっているのですよね。

(伊藤理事) 「熱中塾」はやっているのですが、今回、松田先生のA会議では非常に多くの方が参加されて、松田先生の案で機構の関係者の人と、一般の人を分けていただいて対話するような形でやられたので、そういう意味では相互の理解がかなり進んだのではないかと。

研究者も70名ぐらい普通の平服で参加させてもらって、フランクに意見交換ができる。

(近藤委員長) 「熱中塾」はそういう意味で前からいい仕組みだと評価しています。けれども、いろいろあるから、それぞれにターゲットが社会のどのセクターなのかというメッセージが

あってもいいでしょう。そこは本来自由であることがいいというなら、しょうがないんですけど。

(広瀬委員) そこに高校生が入るといいですね。

(伊藤理事) 少しずつ教育といいますか、少しずつ広がっている気がします。

(近藤委員長) おそらく答えはないのだけど、対象とするセクターによっては夜を使うとか、時間帯も工夫しない限り無理なのかなと私は思っています。これも本当にやりたいのならターゲットとなるステークホルダーをプログラムコミッティに入れるとかしないと実効性のあるプログラムはできないでしょう。今後とも工夫してください。御説明、どうもありがとうございました。

(伊藤理事) どうもありがとうございました。

(近藤委員長) それではこれでこの議題は終わりして、次の議題。これもまず事務局から説明をお願いします。

(2) 「市民参加懇談会in京都」の開催結果について

(黒木参事官) 2番目の議題は「市民参加懇談会in京都」の開催結果につきまして、事務局から御報告いたします。資料第2号です。本資料は市民参加懇談会からの報告でございます。

先日、6月2日、京都のセンチュリーホテルで、テーマは「原子力 ～知りたい情報は届いていますか～ 地球温暖化と原子力」ということで開催いたしました。今回、初めて「地球温暖化と原子力」というテーマで開催するものでございます。出席者につきましては、御意見発表者として特定非営利法人気候ネットワークの浅岡さん。世界学生環境サミットの大学3回生の上杉さん。京都市地域女性連合会副会長の佐伯さん。京都教育大学大学院1回生の竹下さん。京大のエネルギー社会環境科学専攻教授の手塚先生に御出席いただきました。また、市民懇の専門委員の先生、オブザーバーとして原子力委員の先生方に御参加いただきまして、約187名の方に御参画いただきました。

5に概要が書いてございます。第1部では最初に事務局から地球温暖化と原子力に係わる基礎的な情報の説明を行いまして、まず御意見発表者の方々から順に意見を頂き、専門委員の先生との質疑を行った。

第2部では会場の参加者から御意見をお伺いいたしまして、専門委員の先生方等と意見交換を行うという形で実施しております。

2 ページ以降に主な内容ということで概要を書いています。まず、第 1 部での発言と意見交換であります。最初に発表者からの御意見です。1 に温暖化対策について未だに公式に日本のポジションが明らかにされていないことが、国際社会における日本に対する懸念であり、問題であるという意見。

次に、国内の排出量取引制度又は炭素税と言われる仕組みについて、日本は現在、こういう制度がないけれども、それは産業界が強く反対していること。また、原子力発電所の増設で解決できるだろうという方針によって規制措置が先送りになったのではないかと。

3 番目として、温暖化政策において原子力に大変多額のお金が使われているけれども、これを他の温暖化対策に使えばより効果が上がるのではないかとという御意見。

4 番目といたしまして、二酸化炭素の削減は原子力で解決するのではなくて、省エネや燃料展開、エネルギー利用の削減などで対応すべきではないかとという御意見。

5 番目として、京都地域女性連合会の活動などを通じまして、省エネの意識を見直すことによって家庭の中でできる地道な取組の積み重ねを行うこと、それこそが地球温暖化対策につながる原動力であるということ。

6 番目として、同じく連合会の活動などを通じて、国には今一度省エネを家庭で実践しているものと同じ視点に立って温暖化対策の実現を図るとともに、情報発信をお願いしたいということ。

7 番目として、地球温暖化に対する取組について、小中高校において例えば総合的な学習時間の導入などによって考えさせたりする場所作りがなされてきてはいるけれども、大きな枠組みの中でそのような場を用意するところまでいっていないのは今後の課題であるという御指摘。

8 番目として、すべての子どもたちが原子力の基礎知識を学ぶ機会があるわけではないという状況があるということ。

9 番目として、その関連で原子力に関する合意形成をどのように図っていくかが重要であって、授業で実際に原子力ということで取り上げるのはなかなか難しいという現場の声がある。そういうところが教育の課題であるというお話です。

そのほか廃棄物の処分に関する現世代の意識や行動についての御意見。

学生の環境サミットの一環としてアンケート調査をした結果、原子力発電に反対する意見が多かったという話。

原子力施設のリスクを受ける者と使用する者が異なるということに関する考え方。原子力

についてはエネルギー全体の中で議論をする必要があるという話。

また、エネルギーに関する新しい学問としてエネルギー学というものを提唱し、将来、どんな社会構築を目指すのかについて議論を行いたいというお話などがございました。

4 ページですが、これを踏まえた意見交換が出されております。高校教育ではエネルギーや原子力は受験の対象外であるので、理解度をなかなか上げられないというお話に對しまして、意見発表者からこのような状況を変えるには大学の受験の仕方などを変えるということしかないと思うけれども、国はそれに関してどういう考えなのかを聞きたいという話。

それから、原子力について情報を受け取ることが今まであったかどうかという質問に對しまして、意見発表者などから原子力についての認識は不足している。危険なものというイメージだけを持っているという段階でありますというお話などがございました。

また、日本においては原子力発電所があったからこそ、電気の使用量が増えてもCO₂排出をそれに比例して増やさないでこられた。排出量取引についてマネーゲームに過ぎないなどの意見がありますよということに對しまして、御意見発表者より国内の排出量取引というのは市場取引を通じるという一つの工夫であるということと、キャップアンドトレード制の導入はマネーゲームをもたらすということは、あらゆる市場取引においてこういうようなりスクというのはやはり存在するというお話がございました。

また、原子力発電所の立地の予算を他に振り向ける効果はどうかということに對しまして、御意見発表者からヨーロッパの例などを御指摘いただいております。

新しいエネルギー学について、そういう科目を小中高で設定することの実現可能性はどうかというお話がございました。御意見発表者より社会科でエネルギーの問題を議論することは可能だけれども、指導要領に明記されていないということで評価などが難しいですよという話。

また、小中レベルというよりもそれ以降、成長に従ってエネルギー学というのは面白くなってきているのではないかという見通し。

更に、専門委員より原子力について、それぞれの立場の垣根を取り払って正直に話をするということが今まで見たことがないけれども、エネルギー学がそのような場になるのかという御質問がありまして、発表者より学会活動の場を使えば可能ではないかという話がございました。発表者より学会活動の場を使えば可能ではないかという話がございました。

第2部では、主な発言と意見交換ということで、会場参加者よりまずトリウムを利用する原子力を日本から発信すべきという御意見をいただきました。専門委員より基礎研究として

は否定するものではないけれども、プロジェクトとしては大々的には行っていませんという発言がございました。

2 番目の会場発表者より六ヶ所村の再処理工場の稼働などの動きで、食への放射性物質の影響など関心が高まっている。原子力についてマイナス面が語られていないのではないかと、いう御意見を頂いております。

専門委員より、コメントとしてマイナス面ばかりが報道で語られているのではないかと、いうこと。それから、六ヶ所の環境放射能の健康影響や環境影響についてのデータについて説明し、こういうことが更に国民に伝わるようにPRすることが必要だというお話がございました。これに対して御意見発表者より推進派がマイナス面を語ることが重要ではないかという話がございました。

3 番目の発表者よりエネルギーについて地産地消とすべき。原子力ではなく自然エネルギーの方がよいというお話がございました。

次の発表者より原子力においては、安全を学問上、どのように体系付けて説明できるのかというようにお話がございました。御意見発表者より安全性は人それぞれの主観的感覚に依存するという話がありました。その後、専門委員より立地地域と消費地域の役割分担などについての御意見をどう考えるべきかについて意見交換がなされてございます。

最後に会合参加者から、7 ページの最後でございしますが、御意見を頂いておりまして、京都市の地域女性連合会では学習しながら、どこが本当かを見極めて活動していきたい。一人の生活者として環境問題に接し、一人一人が身の回りのことで実践することがCO₂の削減につながると思うという御意見を頂いてございます。以上でございます。

(近藤委員長) ありがとうございます。これは皆さんもオブザーバーで参加された会合の報告ですが、御意見、御質問はありませんか。

それでは、私から一つ、二つ。まず、市民懇談会の今後の予定はどうなっていますか。

(黒木参事官) 次回については、まずテーマをどうするかから議論しないといけませんが、いまはまだ、何月何日という日にちは決まっておりません。1、2 か月以内には開催したいと考えております。

(近藤委員長) その際の議論の参考にということで感想を申し上げますと、今回、若い学生さん二人に入っていたいたのですが、その一人は、大学院で生徒の教育について勉強しているということで、学生とは言いながら現場を知っているプロフェッショナルとして発言されていた。これは非常に良かったと思います。

もう一人は、学生サミットの企画者で、時節柄こういうテーマを取り上げて、身の回りで得たホットな知識を披露している。そういう印象がございました。

ひとつ気になったのは、会場に大変ご婦人の割合が多かったのですが、意外に御発言が少なく、最後にリーダーと思しき人から勉強させていただいたという発言を頂いたことです。私どもは勉強会のつもりではなかったもので、これは私どもの説明の仕方というか、御参加をお願いするときのアプローチに何か問題があったのかなという反省を私としてはしております。

市民参加懇談会は、我々にとって第三者機関のひとつです。皆さん、しばしば「第三者機関がしっかりしないと」とおっしゃいますので、よろしく願いをしなくてはと思った次第です。

よろしゅうございますか。

それでは、この議題はこれで終わります。

それでは、その他議題。

(3) その他

(黒木参事官) その他議題ですが、本日、ホームページ等でご案内する予定にしておりました「平成21年度原子力関係経費の見積もりに関する基本方針案について」でございますが、事務局の方で作業が間に合いませんので、来週の定例会議でご議論していただければと思います。そのほかの議題は特にございません。

(近藤委員長) 公表した議題が議論できないというのはちょっと無様です。事務局にはしっかりしてもらわないといけませんが、傍聴の皆様に御迷惑をおかけしました。不手際、委員長としてもお詫びを申し上げます。

先生方から何か御発言はございますか。よろしいですか。では、次回の予定を伺って、今日は終わりにしたいと思います。

(黒木参事官) 次回ですが、7月1日(火曜日)10時半から、場所はここ共用1015会議室でございます。なお、次回7月1日は第1火曜日に当たりますので会議終了後にプレス懇談会を開催したいと思っております。

(近藤委員長) それでは、今日はこれで終わりにします。どうもありがとうございました。

—了—